

研究・調査報告書

報告書番号	担当
436	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
<p>A healthy dose of scepticism: four good reasons to think again about protective effects of alcohol on coronary heart disease.</p> <p>懐疑主義の健康的な投与量について：冠状動脈性心疾患に関して再びアルコールの保護的作用について考える 4 つの正当な理由</p>	
執筆者	
Chikritzhs T, Fillmore K, Stockwell T.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Drug Alcohol Rev. 2009 Jul;28(4):441-4.	
キーワード	
アルコール、冠状動脈性心疾患、疫学、交絡、保護的作用	
要旨	
<p>課題： アルコールは、冠状動脈性心臓病（CHD）を含む少なくとも 12 種類において保護的作用を示すことを大衆紙と科学文献の双方に意味付けた。</p> <p>アプローチ： CHD に関するアルコールの保護的作用の疫学的証拠は、現在いくつかで疑問を呈されている。本論文はその疑問に対して検証している概要である。</p> <p>結果： 過去の飲酒者と機会飲酒を禁酒といのカテゴリーに系統的に誤分類する疫学的研究において中程度の飲酒者では CHD に関して保護的作用を説明するかもしれないという議論は、新しいメタアナリシスと独立した研究で最近支持されている。管理されていない影響や、未知の要因はアルコールと疾病の間では除外することはできない。健康を害した参加者の除外は研究のサンプルサイズを減らし、また新しい分析はそうすることで保護的作用の出現を人工的につくるかもしれないことを示唆する。正確に彼ら自身の飲酒量を思い出す回答者の能力は重大な疑いがあり、そして、極めて少ないが個人は生涯を通じてある 1 つの飲酒レベルまたはスタイルを維持する。アルコールと若干の状況の関係は飲酒パターンの機能であるかもしれないが、ほとんど研究ではその課題に対応していなかった。アルコールの保護的作用に関する証拠の強さは一般的に条件が誤って導かれているかもしれない。</p> <p>結論： 疾患に関するアルコールの保護的作用について、健康と医学コミュニティが深刻に現在の証拠の質を見直さなければいけない時ではないだろうか。</p>	